



ごあいさつ

福島県小学校長会会長 笠原 聡美

このたび、福島県小学校長会会長に就任いたしました笠原聡美でございます。

大正15年の結成以来、101年という長きにわたり本県小学校教育の発展に尽力されてきた諸先輩方の熱い思いを受け継ぎ、その責任の重さに身の引き締まる思いです。

さて、本年は東日本大震災と原子力発電所事故という未曾有の複合災害から15年という大きな節目を迎えました。当時、先輩方が「学校は復興の最大の拠点である」と掲げ、子どもたちの学びを最優先に全力を尽くしてこられた歩みは、今、確かな結実を見せています。

2025年3月に発表された本県「子どもの心サポートチーム協議会」の提言では、福島の子どもたちが「ふくしまに誇りを持ち、しなやかにたくましく生きる力」を育んできたことが示されました。また、この力は福島だけでなく、日本、そして世界で起こる様々な問題に立ち向かう力にもなるとも示されています。

私たちはこの成果を誇りとし、令和9年度に開催される「第79回全国連合小学校長会研究協議会福島大会」を見据え、大会副主題を「ふくしまに誇りを持ち 多様な他者と協働しながら しなやかにたくましく未来を切り拓く子どもを育てる学校経営の推進」と決めました。また、この副主題は、令和8年度の本会の目標でもあります。

学校が未来を切り拓く子どもたちを育む場となるか否かは、経営の舵取りを担う私たち校長の肩にかかっています。山積する課題を見極め、何を最優先すべきかを判断する「決断力」が求められると同時に、私たち自身が生き生きと職務に邁進する姿を通し、次代を担うリーダーを育てていく責務もあります。

校長先生方お一人お一人が孤軍奮闘することのないよう、本会を「校長先生方の拠り所」にしていきたいと考えています。横のつながりを強め、各支部・各部の活動を活性化させることで、本会を「頼りになり、支えとなり、根拠となる場」へと進化させてまいります。現場の声を真摯に汲み取り、教育環境の整備や処遇改善について関係機関へ働きかけるとともに、被災地校への支援や風評・風化への対策にも、継続して取り組む所存です。

全国大会への準備という大きな山を控えておりますが、会員の皆様の声を真摯に受け止め、一歩ずつ着実に歩みを進めてまいります。本県のすべての子どもたちが、自らの未来を切り拓いていけるよう、皆様と共に全力で取り組んでまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。